

日本の死亡原因第1位である「がん」。約2人に1人は一生のうち一度はがんを経験し、3〜4人に1人は亡くなる時代です。全がん種の増加に従い、婦人科がんも増加しています。今回はがん治療医の立場から皆様に知っていただきたい婦人科がん検診のお話をします。

婦人科がんの大部分を占めるのが「子宮頸がん」、「子宮体がん」、「卵巣がん」の3種類です。同じ子宮でも頸がんとは体がんは組織の由来や発症のメカニズムが違うため別種類として扱います。

## 「婦人科がんとがん検診」

婦人科 副科部長

はまむら けんすけ  
濱村 憲佑



発行 越谷市立病院  
 発行人 院長 丸木 親  
 編集 院内情報誌編集委員会  
 連絡先 〒343-8577 越谷市東越谷10-32  
 電話 048-965-2221(代)  
 F A X 048-965-3019  
 発行月 令和5年(2023年)10月  
 (No.57)

皆様には数年に1度、各自自治体から頸がん検診の補助券が届くはずですが、その際、なぜ体がんや卵巣がん検診はないのか疑問に思ったことはありませんか。公金補助を行うがん検診には確固たる証拠、つまりは「検診によって統計的にがんの罹患・死亡率が減ると証明されている」ことが必要なのです。

頸がんの80%以上は性交渉によるHPVウイルス感染が原因ですが、感染してもすぐがんにはなりません。異形成時に検診で見つければ、病院で経過観察となり、がん発症前に治療できる結果、頸がんが減るのです。

一方で異形成から初期頸がんの場合、自覚症状はほぼありません。そのため検診以外で異形成を発見することは困難です。症状出現時にはがんが相当進行している場合も多いのです。



体がんは月経で排出される組織(子宮内膜)のがんですが、公的検診には含まれません。体がんは90%以上の確率で、早期から不正性器出血症状が出現します。さほど進行は速くないため、症状が出現してすぐに婦人科を受診、治療すれば非常に高い確率で根治が期待できます。また初期では腹腔鏡手術も可能で、低侵襲です。無症状での定期検診よりも、症状出現時にすぐ受診する方が重要なのです。

卵巣がんも定期検診の有用性が証明されていません。画像診断が困難で、急激に進行する点も大きな理由ですが、最大理由は細胞が簡単にとれない点です。

多くの卵巣がんは腫瘍内部に水を溜めています。多臓器のように細胞採取に針を刺せば腫瘍が割れ、お腹の中全体にがん細胞が広がる恐れがあるため、診断は手術で卵巣自体を摘出するほかないのです。全卵巣腫瘍のうち悪性は数%程度で頻度は低いのですが、下腹部(だけ)が膨らんできたと自覚した際には早急な婦人科受診と精査が勧められます。

各自自治体は住民の皆様に対して最善の検診方法を提示しています。案内に従って検診を行うとともに、異常な症状を自覚された場合には都度医療機関を受診いただきたいと考えます。

## 「診察の待ち時間の短縮のために」

「かかりつけ医をもちましよう」

医事課 副課長

ちく あきのり  
知久 昭紀

当院を受診の患者様からは「診察の待ち時間が長い」と言うご意見を頂くことがあります。

当院としても診察の待ち時間短縮のために努力しているところですが、皆様に安心で確実な医療をご提供する状況下、特に予約なしの患者様につきましては、どうしても診察まで長時間お待ちいただくことが多くなつてしまっています。

一方で、一部の患者様におかれましては、比較的軽い症状でも当院へ受診される方も見受けられます。

結果的に、2時間以上お待ちになったにも関わらず、短時間の診療とお薬の処方になるケースもあり、患者様の貴重なお時間を無駄にしまうことになりかねません。

そこで、皆様には是非「かかりつけ医」を持って頂きたいと思っております。越谷市内や近隣市町には多数の診療所があります。

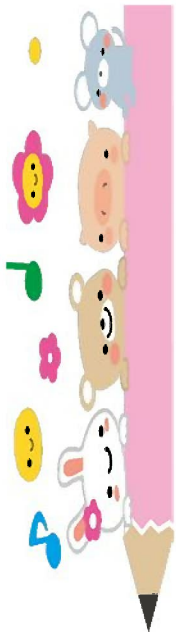
最近では、初診でも電話やインターネットでの予約が可能である診療所が増えていくことに加え、夕方や土日の診療を行っている診療所も多くあり、お仕事等をお休みすることなくスムーズな受診が可能です。

仮に検査や専門的な治療、入院が必要と判断された場合も、当院をはじめとする適切な病院を紹介していただけます。

また、当院での治療後に、経過観察とお薬の処方を目的として通院されている患者様もいらつしやると思いますが、症状によつては近くの診療所でも可能な場合がありますので、主治医が逆紹介先への紹介状を作成いたします。

適切な治療を受け、安心して生活していくためにも、自分の身体をよく知っている「かかりつけ医」をお持ち頂くことが安心の第一歩となります。

もし、お近くの診療所がわからない場合は是非、当院1階の医療連携室へお越しください。お近くの診療所を紹介させていただきます。



### ◆市立病院よりお知らせ◆

かかりつけ医から外来予約できることを  
ご存じですか？

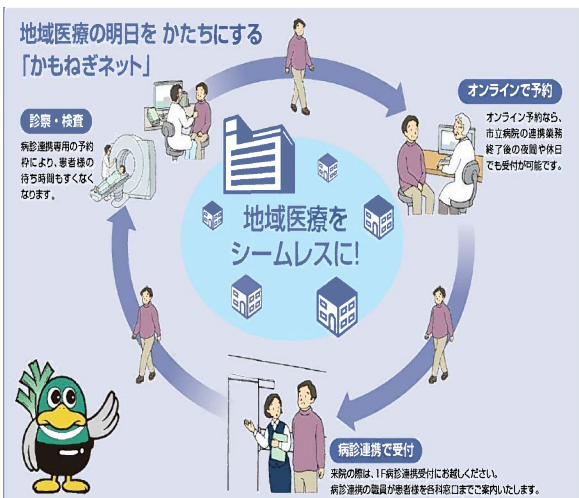
当院の外来診察のご予約をしていただくには、かかりつけ医から当院にお申込みいただく必要があります。

これを病診連携予約といい、待ち時間や診察時間の短縮につながる、患者様にとつてメリットの大きい仕組みです。

病診連携予約には、FAXによる手続きと「かもねぎネット」による方法があります。

「かもねぎネット」はインターネットを利用した予約システムで、利用を希望する地域の医療機関に提供しています。

当院を受診される際は、病診連携予約についてかかりつけ医にご相談ください。



上図:「かもねぎネット」について

新採用医師の紹介

○ 令和5年(2023年)4月1日付

(呼吸器科) 三道 ユウキ

(消化器科) 佐々木 仁

(消化器科) 小田倉 里奈

(小児科) 齊藤 寛貴

(小児科) 中村 果歩

(外科) 吉本 雄太郎

(泌尿器科) 齋 崇光

(産科) 平井 みつ子

新採用医師の紹介

(産科) 柴川 未来

(婦人科) 濱村 憲佑

(婦人科) 中西 愛澄香

(耳鼻咽喉科) 荒井 慎平

(放射線科) 柳田 全孝

(救急科) 増山 勝俊

○ 令和5年(2023年)7月1日付

(整形外科) 蓑輪 宥志

(整形外科) 吉村 康嵩

新採用医師の紹介

(整形外科) 中村 憲司

(整形外科) 伊東 奈々

○ 令和5年(2023年)8月1日付

(小児科) 丸山 和隆

編集後記

今年6月から猛暑日が続き、気温が30度超えが当たり前になりましたね。世界保健機関の会長も「超温暖化時代は終わり、沸騰温暖化時代に入った」と言っておりました。うまいこと言いますね。毎年のように豪雨災害や干ばつなど、災害はいつでもどこでも起こるようになっていきます。日ごろの備えが大事です。健康についても普段から備えておきましょう。

院内情報誌編纂委員長

尾羽澤 英子